



市川レポート

下落が続くAI・半導体関連株をどう考えるか

- 世界の株式市場では、いくつかの懸念材料を背景として、AI・半導体関連株の下落が続いている。
- ただ昨年末から先週末までの期間では、関連の株価指数や個別銘柄は依然高い上昇率を維持。
- 足元のAI・半導体関連株の下げは年明け以降急速に上昇した株価のスピード調整と考えられる。

世界の株式市場では、いくつかの懸念材料を背景として、AI・半導体関連株の下落が続いている

世界の株式市場では、人工知能（AI）・半導体関連株の下落が続いています。この背景には、①米ハイパースケーラー（大規模クラウド事業者）の巨額設備投資に対する根強い懸念、②半導体メモリー分野における中国の長鑫存儲技術（CXMT）や長江存儲科技（YMTC）の台頭、③韓国で登場した個別銘柄を対象として値動きを増幅するレバレッジ型の上場投資信託（ETF）などがあると思われます。

①は、その懸念により、決算発表を前に、持ち高調整の動きが強まったと推測されます。②は、CXMT（データの一時的記憶を担うDRAMの中国最大手）やYMTC（データの長期記憶を担うNAND型フラッシュメモリーの中国最大手）の躍進が、半導体メモリーの世界的な供給過剰と価格下落への不安につながったとみられます。③は、7月16日付レポートで解説した通りで、世界的な半導体関連株の下げの一因になった模様です。

【図表：主要株価指数と主なAI・半導体関連銘柄の動き】

株価指数・個別銘柄				株価指数・個別銘柄				株価指数・個別銘柄				株価指数・個別銘柄			
	直近高値 から 先週末	昨年末 から 直近高値	昨年末 から 先週末		直近高値 から 先週末	昨年末 から 直近高値	昨年末 から 先週末		直近高値 から 先週末	昨年末 から 直近高値	昨年末 から 先週末		直近高値 から 先週末	昨年末 から 直近高値	昨年末 から 先週末
株価指数				個別銘柄 (米国)				株価指数				個別銘柄 (日本)			
	騰落率	騰落率	騰落率		騰落率	騰落率	騰落率		騰落率	騰落率	騰落率		騰落率	騰落率	騰落率
フィナンシャル半導体株指数	-20.2	106.6	64.8	アルファベット	-13.9	28.6	10.8	材料・半導体・インダス	-52.1	941.7	399.4				
韓国総合株価指数	-25.2	116.3	61.8	アップル	6月25日から先週末まで21.3%上昇		22.8	信越化学工業	-8.3	60.2	46.9				
日経半導体株指数	-31.1	175.2	89.7	メモリー・ファブ・システムズ	6月25日から先週末まで19.0%上昇		-2.1	アドバンテスト	-23.4	82.8	40.1				
日経平均株価	-11.4	43.7	27.4	アマゾン・ドット・コム	6月25日から先週末まで8.9%上昇		7.1	レーザーテック	-27.1	93.9	41.3				
ダウ工業株30種平均	-1.7	10.4	8.5	マイクロソフト	6月25日から先週末まで11.6%上昇		-18.6	SCREENホールディングス	-15.3	155.8	116.7				
S&P500種株価指数	-2.0	11.2	8.9	インテル	6月26日から先週末まで5.3%上昇		8.7	東京エレクトロ	-17.4	129.6	89.7				
ナスダック総合株価指数	-5.8	16.6	9.8	クアルコム	-31.6	46.8	0.4	ソフトバンクグループ	-37.2	96.2	23.3				
東証株価指数	-4.3	20.1	15.0	プロダクトコム	-23.0	39.1	7.1	パナソニック	-40.6	292.6	133.0				
個別銘柄 (韓国・台湾)				株価指数				株価指数				株価指数			
	騰落率	騰落率	騰落率		騰落率	騰落率	騰落率		騰落率	騰落率	騰落率		騰落率	騰落率	騰落率
サムスン電子	-30.3	201.9	110.5	アドバンテスト・マイクロ・システムズ	-14.7	171.3	131.5	TDK	-27.8	85.9	34.2				
SKハイニクス	-38.2	353.8	180.7	アップル・マイクロ	-26.7	181.3	106.1	京セラ	-43.1	170.2	53.9				
SKMC	-8.8	61.9	47.7	サムスン	-27.7	153.1	83.0	住友電気工業	-35.6	120.8	42.2				

(注) 騰落率の単位は%。先週末は2026年7月17日。直近高値は株価指数や個別銘柄によって異なるが6月下旬が多い。

(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成



ただ昨年末から先週末までの期間では、関連の株価指数や個別銘柄は依然高い上昇率を維持

こうしたなか、フィラデルフィア半導体株指数（SOX）は直近高値から先週末までに20.2%下落し（終値ベース、以下同じ）、韓国総合株価指数（KOSPI）は25.2%下落するなど、下落率が「弱気相場」入りの目安とされる20%を超えました（図表）。日本でも、日経半導体株指数が31.1%と大幅に下落し、日経平均株価も下落率が11.4%と、「調整局面」入りの目安とされる10%を超えました。

そして、主なAI・半導体関連銘柄についても、その多くが直近高値から先週末までに大きく下落していることが確認されます。ただ、改めて図表をみると、前述の株価指数も個別銘柄も、確かに直近高値から先週末までの下げは顕著であるものの、そもそも昨年末から直近高値までの上昇率がかなり大きく、足元の調整を経ても、昨年末から先週末までの期間では、ほとんどが2ケタ（なかには3ケタ）の上昇率を維持していることが分かります。

足元のAI・半導体関連株の下げは年明け以降急速に上昇した株価のスピード調整と考えられる

つまり、足元のAI・半導体関連株の下げは、金融危機や景気後退に起因するものではなく、年明け以降急速に上昇した株価のスピード調整と考えることができます。実際、ダウ工業株30種平均やS&P500種株価指数の直近高値から先週末までの下げは限定的であり、ナスダック総合株価指数や東証株価指数（TOPIX）も、ダウ平均やS&P500に比べ下落率はやや大きいものの、株式市場全体が大きく混乱している様子はみられません。

冒頭の3つの点について、①は、まもなく発表される決算内容の精査が大切であり、②は、競争の激化が高付加価値製品の誕生や技術革新を強く促す原動力になり得ると思われ、③は、韓国の金融当局が規制の動きをみせており、今後の展開が注目されます。以上を踏まえると、やはり重要なのはAI・半導体関連企業の業績であり、株価のスピード調整が終了した際、良好な決算内容が示されていれば、見直し買いの材料になりやすいと考えます。

※個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものであり、投資勧誘を目的として作成されたもの又は金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料の内容に関する一切の権利は当社にあります。本資料を投資の目的に使用したり、承認なく複製又は第三者への開示等を行うことを厳に禁じます。■当資料の内容は、当社が行う投資信託および投資顧問契約における運用指図、投資判断とは異なることがありますので、ご了解下さい。

三井住友DSアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号
加入協会：一般社団法人資産運用業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会